

平成 26 年度
事業報告書

自 平成 26 年 4 月 1 日
至 平成 27 年 3 月 31 日

社会福祉法人 空知の風

◇はじめに

～平成 26 年度事業の総括～

■法人事業運営

平成 26 年度は法人設立及び事業を開始して 3 年目となり、法人・施設・各部門の役割や成果・課題を再確認する年度となりました。当法人の理念である『利用者さんの個々の自己実現に向けた支援、豊かな暮らしに向けた支援』に向けて、各事業の活動と取組みを実施していますが、その活動においては、次の重点目標を 3 つ掲げて取組んで参りました。

1. 人材の育成
2. 利用者支援の専門性・質の向上
3. 地域における社会貢献の取組

1. 人材の育成

人材の育成については、次の 3 つの視点から人材育成を考えて取組みました。

- ①知的障がいについて（障がいの理解 支援方法 専門性 権利擁護等）
- ②福祉に携わる人間として（思いやり、心配りのできる人材）
- ③社会人として、法人の職員として（挨拶・お礼・謝罪・5 S）

- ・職員個々の経験値の獲得、各事業の円滑な推進、お互いの部署の活動に対する理解促進等を狙い大幅な人事異動を実施しました。
- ・知識を付けるために有効な研修として、内部研修ではテーマに応じた学習会の講師を各職員が事前に学習し、自ら講師を務める取組みを実施すると共に、職員会議や打ち合わせ等の場を活用して多方面に及ぶ講義やミニ研修を実施しました。
- ・他の施設の取組みを知り自分達の活動に活かせるように外部の施設への視察研修を実施しました。
- ・外部の研修会への積極的な参加と渉外活動を通じた他の施設職員との交流の推進
- ・職責、職務、役割について、管理職による個々の職員との面談や指導、助言等を実施しました。

2. 利用者支援の専門性・質の向上

- ・上記 1 の取組みを通じて専門性に繋げる知識を身につけ、現場の支援技術向上に努めました。
- ・わかりやすい表記、掲示物、スライドの活用や便利な器具等を支援に活用して知的障がいの特性に応じた支援を実施しました。
- ・会議や打ち合わせ等において、権利擁護や虐待防止に向けた自己覚知の再確認とチーム対応による支援の実施、中央情勢の報告や注意喚起を進めました。

3. 地域における社会貢献の取組

- ・地域貢献への取組みとして、職員、利用者による共同募金の街頭募金活動の実施。
- ・西部連合会館の駐車場、玄関前の除雪、屋根の雪降ろし作業、施設事業所、グループホームの所在地域の除雪活動を実施しました。
- ・地域高齢者施設への利用者のダンス発表等の慰問活動に参加しました。

これら 3 点の重点目標は今後も継続しつつ、その内容については拡充に向けた取組みを更に進めて参ります。

■役員会運営

理事会・評議員会ともに役員の出席と、活発な意見、慎重な審議により事業運営に関わる決定を迅速に実施する事が出来ました。

また、監事監査においては、四半期毎に会計監査、運営監査を実施し、実務上の改善事項について助言を頂き運営改善に繋がっております。

法人経営と会計については、公認会計士による外部監査も継続しており、適正な会計処理と経営における評価をして頂いています。

○理事会の開催状況について

平成26年度	第1回	理事会	平成26年 5月24日	(出席理事6名・監事2名)
平成26年度	第2回	理事会	平成26年10月25日	(出席理事6名・監事2名)
平成26年度	第3回	理事会	平成26年12月27日	(出席理事6名・監事2名)
平成26年度	第4回	理事会	平成27年 3月14日	(出席理事6名・監事2名)

○評議員会の開催状況について

平成26年度	第1回評議員会	平成26年 5月24日	(出席評議員12名・監事2名)
平成26年度	第2回評議員会	平成26年12月27日	(出席評議員13名・監事2名)
平成26年度	第3回評議員会	平成27年 3月14日	(出席評議員11名・監事2名)

○監事監査の実施状況について

平成26年度	前4期及び前期決算監事監査	平成26年 5月14日	(会計監査)
平成26年度	前4期及び前期決算監事監査	平成26年 5月15日	(業務監査)
平成26年度	第1期監事監査	平成26年 9月17日	(業務監査)
平成26年度	第1期監事監査	平成26年 9月19日	(会計監査)
平成26年度	第2期監事監査	平成26年12月 4日	(業務・会計監査)
平成26年度	第3期監事監査	平成26年 3月 3日	(業務・会計監査)

○外部監査の実施状況について (税理士法人 さくら総合会計)

平成26年度	前期3月分	平成26年 4月17日
平成26年度	前期決算分	平成26年 5月 8日
平成26年度	4月5月分	平成26年 6月17日
平成26年度	6月分	平成26年 7月24日
平成26年度	7月分	平成26年 8月26日
平成26年度	8月分	平成26年 9月30日
平成26年度	9月分	平成26年 10月28日
平成26年度	10月分	平成26年 12月 3日

平成26年度 11月分	平成26年 12月25日
平成26年度 12月分	平成27年 1月30日
平成26年度 1月分	平成27年 2月25日
平成26年度 2月分	平成27年 3月27日

○岩見沢市による運営監査及びに空知総合振興局による事業運営実地指導について
本年度運営監査及びに事業運営実地指導の実施はありません。

■施設整備について

主な施設・事業所の整備としましては、北海道共同募金会様の補助を受け、「たのしいどう」2階で活動している利用者さんのための避難用階段を設置いたしました。また、「きっちんどう」の生産活動の主力製品である肉巻きおにぎりの生産力の向上のために、ヤマト福祉財団様より補助を受け、スチームコンベクションオーブンを購入し、運用することができました。グループホームの新規住居の整備・増設については、3月に場所や間取り等の条件面で適した物件が見つかり、27年度4月からの開設に向けて準備を行なっております。

◇工事

- | | |
|-------------------------------|-------------------------|
| <input type="checkbox"/> 工事名 | たのしいどう避難用階段設置工事 |
| <input type="checkbox"/> 業者名 | 松浦建設株式会社 |
| <input type="checkbox"/> 工事費用 | 2,090,000円（北海道共同募金会様助成） |
| <input type="checkbox"/> 工事名 | 秋いろいろ荘外壁補修工事（雪害修繕） |
| <input type="checkbox"/> 業者名 | 広匠 |
| <input type="checkbox"/> 工事費用 | 517,000円 |
| <input type="checkbox"/> 工事名 | 春が来た荘屋根補修工事（雪害修繕） |
| <input type="checkbox"/> 業者名 | 広匠 |
| <input type="checkbox"/> 工事費用 | 570,000円 |
| <input type="checkbox"/> 工事名 | たのしいどう2階作業室改修工事 |
| <input type="checkbox"/> 業者名 | 有限会社 西岡建設 |
| <input type="checkbox"/> 工事費用 | 1,890,000円 |
| <input type="checkbox"/> 工事名 | きっちんどう避難口新設工事 |
| <input type="checkbox"/> 業者名 | 有限会社 西岡建設 |
| <input type="checkbox"/> 工事費用 | 540,000円 |

◇物品購入

- 購入物品 きっちんどうスチームコンベクションオープン
業者名 ホシザキ北海道 株式会社
購入費用 1, 134, 000円 (ヤマト福祉財団様助成)

- 購入物品 桜なごみ荘消防設備
業者名 株式会社 中島エレキ
購入費用 972, 000円

◇車両購入

- 購入車両 トヨタカルディナ
業者名 AUTO×AUTO
購入費用 350, 000円

- 購入車両 トヨタヴィッツ
業者名 有限会社秋元自動車工業
購入費用 580, 000円

- 購入車両 トヨタポルテ
業者名 有限会社秋元自動車工業
購入費用 429, 000円

■事故報告の状況について

利用者さんに係る事故

- ①支援時間中の軽傷 2件 (段差踏み外しによる捻挫)
(利用者さん同士のトラブルによるけが)
②所在不明による搜索 2件 (GH利用者さんの無断外泊に係る搜索)

車両による事故件数

- ①人身事故 0件
②単独接触事故 5件 (雪壁への接触、施設・建物などへの接触等)
④被事故 1件 (信号待ち中の追突事故)

- 職員の負傷事故 1件 (冬季の雪下ろし中のはしごからの落下事故)
(労働災害保険適用)

■役員・職員 外部研修参加について

No.1

職員 研修参加一覧				
日時	研修名	主催	場所	参加人数
4月28日	平成26年度 空知知的しょうがい福祉協会理事懇親会	空知知的しょうがい福祉協会	岩見沢市	4名
5月8日 ～9日	平成26年度 全道施設長セミナー、定時総会	(一社) 北海道知的障がい福祉協会	札幌市	3名
6月17日 ～18日	平成26年度 北海道社会就労センター協議会 第1回社会就労センター施設長・職員研修会	北海道社会就労センター協議会	札幌市	2名
5月27日	平成26年度 第1回理事会	NPO法人ふらっと	岩見沢市	1名
5月27日	平成26年度 第1回総会	NPO法人ふらっと	岩見沢市	4名
6月11日	第3回全国生産活動 就労支援部会職員研修会	第3回全国生産活動 就労支援部会 職員研修会	東京都	1名
6月12日 ～13日	平成26年度全国知的障害関係施設長等会議	(公財) 日本知的障害者福祉協会	東京都	1名
6月23日	平成26年度業務説明会(新任担当者研修)	(一社)北海道民間社会福祉事業職 員共済会	札幌市	1名
6月4日～5日 7月1日～3日	平成26年度相談支援従事者研修(基礎研修)	特定非営利活動法人 北海道 地域ケアマネジメントネットワーク	札幌市	1名
6月15日	平成26年度総会及び職員研修会Ⅰ(就労系)	空知知的しょうがい福祉協会	赤平市	2名
6月20日	第1回NPO法人ふらっと研修会	NPO法人ふらっと	岩見沢市	4名
6月13日	平成26年度定時総会	(一社)北海道民間社会福祉事業職 員共済会	札幌市	1名
8月6日	全道グループホーム等スタッフ研修会	北海道知的障がい福祉協会	札幌市	1名
8月25日	食品販売等に携わる福祉従事者のための食品表示に関する研修	北海道社会就労センター協議会 北海道知的障がい福祉協会	札幌市	5名
7月22～24日	平成26年度障がい者虐待防止、権利擁護指導者養成講座	(一社) 北海道知的障がい福祉協会	札幌市	1名
7月24日	空知しょうが者就業生活支援センター「ひびき」連絡会議	(社福)北海道光生会爽やかネット ワーク	美唄市	2名
7月25日	就労系事業に関する会議	北海道知的障がい福祉協会	札幌市	3名
9月16日	平成26年度社会福祉施設管理・運営セミナー	社会福祉法人北海道社会福祉協 議会 社会福祉施設部会	札幌市	1名
9月18～19日	平成26年度 空知知的しょうがい福祉協会 新任職員研修会	空知知的しょうがい福祉協会	美唄市	3名
9月17日	平成26年度 苦情解決システム研修会	北海道福祉サービス 運営適正委員会	札幌市	1名
8月29日	平成26年度 三者合同懇談会	岩見沢市知的障がい職親会	岩見沢市	2名
8月28～29日	甲種防火管理新規講習		岩見沢市	1名
9月11日	相談支援従事者フォローアップ研修	地域生活支援センターあへち	岩見沢市	1名
10/6～8	第3回全国生産活動 就労支援部会職員研修会	公益財団法人 日本知的福祉協会	東京都	5名
10月24日	平成26年度北海道福祉施設経営懇話会定例会	北海道福祉施設経営懇話会	札幌市	1名
10月20～21日	平成26年度全道知的障がい関係職員研究大会	一般社団法人 北海道知的福祉協会	札幌市	3名
11月2日	空知知的しょうがい福祉協会平成26年度栄養士・調理員従事者研修会	空知知的しょうがい福祉協会	深川市	2名

職員 研修参加一覧				
日時	研修名	主催	場所	参加人数
11月26日	平成26年度社会福祉法人・社会福祉経理取扱実務研修会	社会福祉法人北海道社会福祉協議会 北海道社会福祉法人経営者協議会	札幌市	1名
11月2日	教師と支援者、保護者のための特別公開講座	北海道自閉症協会札幌分会 自閉症援助技術研究会	札幌市	3名
10月24日	平成26年度 第2回ふらっと研修会	NPO法人ふらっと	岩見沢市	2名
11月27日	平成26年度 空知管内知的障害関係施設・学校行政機関等連絡協議会	空知知的しょうがい福祉協会	美唄市	2名
11月27日	就労支援部会 部会協議会	北海道知的障がい福祉協会	札幌市	2名
11月6日	さくらセミナー 相続税・贈与税の改正と遺言の活用	宏栄会	札幌市	1名
11月20日	空知知的しょうがい福祉協会 防災担当者ミーティング	空知知的しょうがい福祉協会	岩見沢市	2名
12/1・2	平成26年度北海道障がい者虐待防止・権利擁護研修	北海道保健福祉部福祉局	札幌市	3名
12月7日	平成26年度空知知的しょうがい福祉協会職員研修会Ⅱ	空知知的しょうがい福祉協会	岩見沢市	2名
12月9日	平成26年度 第一回理事研修会及び意見交換会	空知知的しょうがい福祉協会	滝川市	4名
1月13日	安心・安全な製品づくりへのスキルアップ研修第2弾	北海道社会就労センター協議会 北海道知的障がい福祉協会	札幌市	5名
1/27・28	平成26年度幹部職員研修会	空知知的しょうがい福祉協会	札幌市	2名
12月25日	ソーシャルファーム北海道セミナー in岩見沢	いわみざわ「有機と福祉の農業」協議会事務局 NPO法人コミュニティシンクタンクあろうぞ	岩見沢市	2名
1月29日	平成26年度 社会福祉法人経営セミナー	北海道社会福祉協議会 北海道社会福祉法人経営者協議会	札幌市	4名
1月20日	子ども発達支援関係者研修会	地域生活支援センターあへち	岩見沢市	2名
1月19日	障がい者雇用に向けての意見交換会	北海道	岩見沢市	2名
3/10・11	平成26年度北海道社会就労センター協議会第2回施設長職員研修会	北海道社会就労センター協議会	札幌市	3名
1月22日	弁当、総菜類の表示に係わる講習会	北海道社会就労センター協議会	札幌市	2名
3/11～12	空知知的しょうがい福祉協会 26年度宿泊幹事会	空知知的しょうがい福祉協会	月形町	2名
3/12～13	平成26年度全道施設長研修会	北海道知的障がい福祉協会	札幌市	2名
2/26～27	第31回全国社会就労センター長研修会	全国社会福祉協議会	横浜市	3名
3月27日	第3回ふらっと理事会・総会・交流会	NPO法人ふらっと	岩見沢市	6名
3月23日	27年度福祉サービス等報酬改定に係る事業者説明会	北海道空知総合振興局保険環境部	岩見沢市	4名
				計118名

※研修参加回数 50回

※役員・職員参加人数 118名（延べ人数）

■内部研修について

日 時	研修内容	講師等
平成 26 年 6 月 6 日	外部視察研修報告	橘常務理事
平成 26 年 6 月 6 日	知的障がいについて	山下支援部長
平成 26 年 6 月 21 日	権利擁護・虐待防止	廣岡・山本・立岩・中山
平成 26 年 8 月 2 日	共済会の仕組みについて	松田事務局長
平成 26 年 8 月 2 日	法制度について	山下支援部長
平成 26 年 9 月 20 日	知的障がいについて	橘常務理事
平成 26 年 9 月 20 日	伺伝票・小口現金	五十嵐
平成 26 年 9 月 20 日	個別支援計画について	竹治主任
平成 26 年 11 月 22 日	法人・施設の目的と役割について	橘常務理事
平成 26 年 12 月 5 日	総合支援法、権利擁護	橘常務理事
平成 26 年 12 月 26 日	内需拡大計画・視察研修報告	橘常務理事
平成 27 年 1 月 17 日	食品表示法について	山下支援部長
平成 27 年 2 月 18 日	質の高い利用者支援とは①	橘常務理事
平成 27 年 2 月 20 日	質の高い利用者支援とは②	松田事務局長
平成 27 年 3 月 21 日	27 年度事業計画について	橘常務理事

■行事の実施状況について（各施設・事業所合同）

日 時	行 事 名
平成 26 年 4 月 4 日	事業開始式
平成 26 年 6 月 29 日	第 3 回地域交流祭※法人行事
平成 26 年 9 月 6 日	第 3 回レク大会
平成 26 年 10 月 24 日～25 日	利用者温泉旅行 1 班(洞爺湖)
平成 26 年 10 月 30 日～11/1 日	利用者温泉旅行 2 班(登別)
平成 26 年 12 月 24 日	利用者忘年会
平成 26 年 12 月 27 日	法人忘年会※法人行事
平成 27 年 1 月 19 日	新成人のお祝い会

■ 渉外活動（平成 26 年度）

渉外活動	職 名	氏 名
空知知的しょうがい福祉協会	理 事	橘・松田・横田
	幹 事	倉増・山本
・岩見沢市障がい者福祉施策懇話会 ・岩見沢市障がい者サポート協議会	委 員	橘
岩見沢市障がい者サポート協議会 相談支援部会	部会長	山下
NPO 法人ふらっと	理 事	橘
	会員・委員	橘・横田・川村・堀
日本知的障害者福祉協会 生産活動・就労支援部会全国大会	実行委員	橘・横田

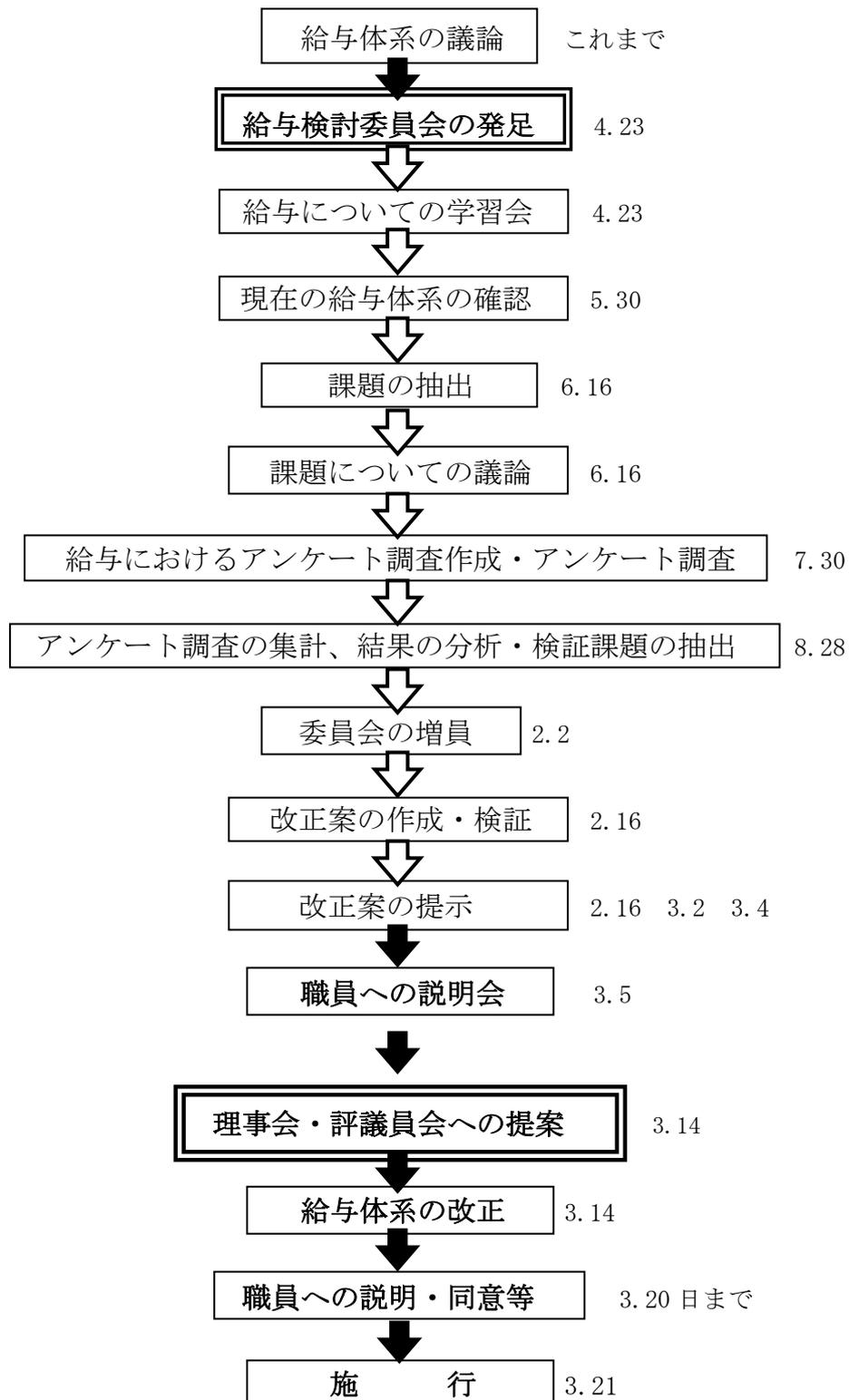
■ 給与検討委員会について

法人を設立した当初は、前身である法人の給与体系をベースに当法人の給与体系を作ってきましたが、3年を経過したところで、当法人の実情に合致した給与体系を検討したいという事で、役員会に承認を頂き、給与検討委員会を立ち上げ、1年をかけて議論を進めてまいりました。給与の言葉の定義から、社会保険の仕組みなどの学習をし、職員に対して給与や働き方に関するアンケート調査を実施、結果を分析しております。また、委員会には幹部職員のみで構成することはせずに、一般の職員も複数加えて、意見を聞き、給与規程の改定案を作成しました。3月の役員会にて大筋で承認を得て、平成 27 年度より新しい給与体系のもとに事業を開始しております。

給与検討委員会におけるプロセスと経過について

○給与改定に至る背景と経過

- 1.法人設立準備委員会での議論の中において、2年を目途に現状の給与体系における課題等を職員間で議論して改善してはどうかとの意見でスタートしました。
- 2.この3年間、現在の給与体系で実施して行く中で、課題と思われる事項を給与検討委員会を発足して議論を開始した。



利用者現況調べ（平成27年3月31日現在）

①年齢構成（単位：人）

	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳～	合計
男性	5	28	17	4	4	0	0	58
女性	5	21	9	3	1	0	0	39
総数	10	49	26	7	5	0	0	97

平均年齢：男性 29.50歳、女性 27.74歳、全体 28.79歳

②障害支援区分

	なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	平均
男性	13	3	16	19	2	5	0	2.28
女性	9	1	5	11	6	6	1	3.47
総数	22	4	21	30	8	11	1	3.08

■工賃の支払い状況（単位：円）

事業	たのしいどう 定員40名			きっちんどう 定員20名		あかるいどう 定員20名	
	就労移行	就労継続 B	せいかつかいご 生活介護	就労継続 B	せいかつかいご 生活介護	就労移行	せいかつかいご 生活介護
平均額	15,105	15,004	13,619	18,093	16,808	29,139	11,579
事業所平均	14,620			17,773		20,213	

平成26年度 たのしいどう 事業報告

1. 26年度事業の総括

4月より3名の利用者さんを新たに迎え、年度途中にも2名の利用者さんが新規利用となりました。事業所におけるやりがいのある作業の提供、就職を目指す方のスキルアップと職場定着に向けた支援、そして作業活動以外にも日々の楽しみにつながるようなレクリエーション支援を行ないました。

生産活動の面では、東京での見本市を通して冷凍ロールケーキの味を評価頂いたことをきっかけに全国への発送が動き出しました。さらなる品質の向上を目指すにあたり、食に携わる責任としての「食品衛生」についてさらなる意識向上を目指しています。

レクリエーション活動では、これまで取り組んできた活動の他、個別の趣味活動のニーズに応えるべく、グループでのレク以外の取組みも開始しました。

短期入所事業ではご家庭の状況、希望に合わせた受入を行ないました。



見本市の様子

2. 実施事業

- 就労移行支援事業 定員10名 現員11名
- 就労継続支援事業B型 定員20名 現員19名
- 生活介護事業 定員10名 現員13名
- 短期入所事業 定員 2名/日

3. 平成26年度の利用状況

- たのしいどう全体（定員40名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	41	42	42	43	44	46	46	44	43	44	43	48	87.4%	
開所日数	25	24	25	26	24	24	26	24	23	23	23	25		292
延利用回数	844	839	866	934	818	873	918	798	827	785	773	939		10,214

平均実利用数34.9名（小数点第2位以下切り上げ）

新たに4名の方が利用を開始しました。年度途中に日中活動の体験利用の受入も随時行なっています。特に1～2月期の延べ利用者数の減少が激しく、交通機関を活用される方が多い分、安定した通所手段の確保が難しい現状があります。

■就労移行支援事業（定員10名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率	
実人数	11	11	11	11	11	13	12	11	11	11	11	13	/	96.3%	
開所 日数	25	24	25	26	24	24	26	24	23	23	23	25			292
延利用 回数	238	231	237	249	227	249	257	216	227	221	216	243			2,811

平均実利用数 9.7名（小数点第2位以下切り上げ）

年度途中で暫定支給決定を利用した実習の受け入れを行ないました。実習を経て3月より利用開始しています。

■就労継続支援事業B型（定員20名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率	
実人数	19	19	19	19	19	19	20	19	19	19	19	20	/	76.4%	
開所 日数	25	24	25	26	24	24	26	24	23	23	23	25			292
延利用 回数	390	386	390	413	348	370	396	347	357	332	327	408			4,464

平均実利用数 15.3名（小数点第2位以下切り上げ）

就労移行支援利用後の受け入れ枠の確保のため、定員にゆとりを持たせています。3月現在で契約者数は20名と定員と同数ですが、実利用者数としてはまだ余裕のある状態です。

■生活介護事業（定員10名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率	
実人数	11	12	12	13	14	14	14	14	13	14	13	15	/	100.7%	
開所 日数	25	24	25	26	24	24	26	24	23	23	23	25			292
延利用 回数	216	222	239	272	243	254	265	235	243	232	230	288			2,939

平均実利用数 10.1名（小数点第2位以下切り上げ）

急激な利用ニーズの伸びがあった一年でした。3月時点で10名定員のところ契約者数15名と、新年度に向けた対応が必要となりました。

■短期入所事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	0	0	1	0	1	0	1	1	0	1	0	0	
延利用回数	0	0	7	0	3	0	7	2	0	2	0	0	21

25年度と比較して延べ利用者数は減となりました。緊急時の受入れ対応として事業を実施しております。

4. 取組みの概要

■利用者支援

□企業就労（定着支援利用者 5名）

就労先	業務内容
イオン岩見沢店	青果品出し等
サトウ食品	工場内清掃
食彩	高齢者施設厨房
美さき	仕出し弁当作業
マックスバリュー江別店	品出し等作業

前年度から引き続き就労で活躍されている方の定着の支援を行ないました。お仕事に関わることや職場内の人間関係の調整など、職場巡回やご家族との面談などの方法で支援にあたっています。また、1名の利用者さんが雇用を伴う短期の職場実習に挑戦。誠実な姿勢でやり遂げることが出来ました。

□事業所内での生産活動（取り組みの詳細は就労事業報告参照）

- ・パンの製造販売
～冷凍発送パンの安定的な受注を維持できました。様々な種類のパンの冷凍発送を希望される取引先もあり、良質な製品作りのための試作に着手しました。
- ・菓子の製造販売
～東京日比谷公園で行われた見本市をきっかけに更に北海道外の取引が拡大。製造ラインの安定化と安全性の立証のための取組みを実施しました。
- ・カフェでの飲食店運営
～お子様連れのお客様が安心して利用できるお店作りに向けて、キッズスペースの拡充とおむつ交換台など、様々な器具、設備を整備しました。
- ・利用者昼食、グループホーム夕食の製造委託作業
～リクエストメニューが利用者さんに定着。「大好きなものが献立に出る」ことで食へ

の喜びを提供する第一歩となりました。

- ・ クイリング技法での紙工芸製品の制作と販売
～利用者さんの技術向上に伴い、幅広い製品ニーズに対応できています。デコレーション賞状や結婚式のウェルカムボードまで、世界に一つだけの記念品制作のきっかけをつかみました。

□ やりがいや楽しさを創出する活動

- ・ 運動や芸術活動を取り入れたレクリエーション活動
ダンスエアロビクスは良い運動となり、発表の機会があることで目標意識を持ってやり遂げる経験を提供できました。空知知的しょうがい福祉協会の行事を始め、法人内でのイベントでも盛大な拍手を頂いています。一大イベント「みんなあ〜と2015」では、空知の風合同チームを結成し、YOSAKOI ソーランをモチーフにしたダンスを発表。第三位にあたる「共同募金会会長賞」を受賞しました。数年にわたって賞から遠のいていた分、利用者さんの感動はひとしおだったようです。スタッフも感動でホロリとさせられました。



- ・ 当事者活動の支援
毎週の利用者朝会での司会進行や目標の発表等をはじめとして、各種行事の実行委員会参画も継続して支援しています。「自分たちが彩る自分たちのイベント」として忘年会の司会や余興など、積極的な当事者活動支援を目指して取り組んでいます。



■ 権利擁護

法人職員の内部研修として、苦情受付窓口の担当職員企画による権利擁護研修を実施しました。普段慣れない発表の機会に担当職員も四苦八苦したようですが、一生懸命権利擁護について勉強し、外部研修で学んだことを法人内にフィードバックしています。人権侵害ゼロへの誓いも全職員が署名、利用者支援の在り方を常に見直す様に職員朝礼、終礼で確認しています。

■ 苦情解決

今年度の苦情受付は0件、要望は2件となりました。要望はいずれも利用者さん同士の間関係の調整が主訴となっています。24年度途中から導入した相談カードは、気軽にポ

ストへ投入できる分、苦情や要望だけではなく、相談したいこと等があった際にも利用しやすくなるのではないかと期待があります。要望として挙げた2件は相談カードを活用して頂けたケースでした。口頭での意思表示や手紙を書いて頂けるなど、様々な苦情・要望受付のパターンに柔軟に対応できるように検討を重ねています。

■感染症対策

利用者玄関での殺菌や通所時のうがいの励行や手洗い支援等を毎日実施しました。利用者さんの感染症は今年度は大きなものもありませんでした。しかしながら、職員のウイルス性腸炎の感染をきっかけとして、職員の中でも感染予防の意識が高い水準で維持されていない事が浮き彫りになりました。インフルエンザやノロウイルスなど、感染症の予防と、罹患時の適切な対応が常に行える様に努める必要があります。

■災害対応・事故対策

避難訓練を夏と秋の2回実施、2階の下請加工事業班の近くに避難階段が無かった課題については、共同募金会様の助成金を受けて設置が完了し、実際の訓練で活用しました。足元に不安のある利用者さんが多かった下請加工事業班の避難に要する時間は飛躍的に短縮が図られ、有事の対応はより円滑に行える設備となりました。一方、防災訓練の経験の浅い職員がまだ多いため、初期消火や避難誘導、現員の確認などは十分とは言えません。管理職員主導による防災訓練でなく、現場職員が災害イメージと役割を認識しやすい様な訓練を目指していきたいと思えます。

■年間行事

年度内に実施した法人事業所合同の行事に関しては法人の事業報告参照。

■諸会議

法人常勤職員が一同に会しての会議、主任会議、幹部職員会議を定例で開催し、全体で挙げた議題を検討しています。事業班単位や各係、行事实行委員会等、各セクションの会議も必要に応じて行なっています。

■健康管理

7/17 の健康診断の実施の他、看護師による定例の体重測定を継続して実施。大きな体重の増減により健康を損なう方はいらっしゃいませんでしたが、増加傾向にある利用者さんにはご家庭への連絡も含め個別に助言を行なっています。

■支援記録

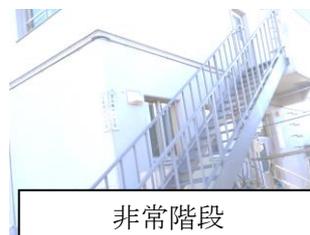
連絡帳形式での支援記録の記載と家庭とのやり取りを継続しました。文章で伝えられるものとそうでないものを支援者が熟慮して取り組まなければ必要な情報が伝わらない、あるいは間違って伝わる可能性があることを職員間で確認をしています。微細な様子や声掛けの内容等についてはお電話での連絡を通して補足するように努めています。

■職員研修

年度内に参加した外部研修等に関しては法人の事業報告参照。北海道内外の視察研修を実施しました。幹部職員が視察に参加するだけでなく、現場職員も同行し、見聞きしたものを他の職員に近い目線でフィードバックするようにしています。

■施設整備状況

平成25年度中に共同募金会様より助成の内示を頂いていた非常階段の設置が無事完了しました。



■工賃支払い状況

□就労移行支援事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	11	11	11	11	11	11
総支給額	137,200	127,500	149,200	140,900	128,900	146,800
平均額	12,473	11,591	13,564	12,809	11,718	13,345

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	11	11	11	11	11	11	132
総支給額	132,500	145,100	309,200	115,600	153,100	307,800	1,993,800
平均額	12,045	13,191	28,109	10,509	13,918	27,982	15,105

□就労継続支援事業B型

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	19	19	19	19	19	19
総支給額	239,900	232,600	258,600	249,300	225,400	257,900
平均額	12,626	12,242	13,611	13,121	11,863	13,574

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	19	19	19	19	19	19	228
総支給額	233,000	250,300	523,500	199,800	246,000	504,700	3,421,000
平均額	12,263	13,174	27,553	10,516	12,947	26,563	15,004

□生活介護事業

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
11	11	12	13	13	13	73
130,800	123,900	139,400	144,300	140,500	154,900	833,800
11,891	11,264	11,617	11,100	10,808	11,915	11,422

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	13	13	13	13	13	13	151
総支給額	135,600	153,700	320,600	118,300	155,200	339,300	2,056,500
平均額	10,431	11,823	24,662	9,100	11,938	26,100	13,619

□事業所全体の平均工賃額 ¥14,620/月(43名)

5. 課題

生活介護事業の利用ニーズ増加が顕著です。やりがいのある作業活動と楽しみのあるレクリエーション活動の両面をバランス良く維持していくことと、利用者さんの個性に配慮したメニューの創出が必要となっています。また、それに合わせた作業環境等のハード面の整備も必要です。生産活動の面においては、パン、菓子の冷凍発送が実を結びつつあることに鑑み、「食の安全」を追求する取組みが急務です。これまでも実施してきた製品の生菌検査等の品質試験を継続して行ないます。また、食品表示法の改正に伴い、法令を遵守した表示の在り方を学習し、対応していくことが求められます。

就労事業の報告

■ 事業班名 レインボー

1. 取組みの概要

生産活動では、細長い紙を巻いて装飾図案を作る「クイリング」作業を継続して取り組みました。利用者さんの技術向上により、多様な製品が生み出されました。

レクレーション活動は今年度延べ100回実施。昨年度から取り入れたダンスエアロビクスは今年度も継続しています。また、全体でのダンスやハンドベル等のメニューの他、個別の趣味活動への支援を希望に応じて取り入れました。



2. 成果

クイリング技法で制作したデコレーション賞状やウェルカムボードは加盟事業所の行事やお客様の大切な場面で使用して頂くことが出来、様々なニーズに対応することが出来ました。レクレーション活動において、ダンスエアロビクスは様々な発表の場を頂き、大きな拍手を頂くことが出来る等、利用者さんも達成感を得られたのではないかと感じています。また、個別の趣味活動の支援として割り箸アート制作の制作支援も行ないました。2か月以上の長期間をかけて制作した大作は、ご本人にとっても満足のいく仕上がりになったようです。



ウェルカムボード

3. 課題

クイリング作業の付加価値を高める取組みは今後も必要です。また、次年度の利用

3. 課題

菓子製造の HARU Berry と同じ建物の中で設備をシェアすることで、相互にスタッフが連携する意識作りや焼き上げの機能などの不足を補う事には一定の成果をあげましたが、利用者さんの数も多く、手狭な思いをさせてしまったことが反省としてあります。新年度の課題として、班ごとの分業体制やその作業空間等、班の編成を改めて検討していきます。

■ 事業班名 ハルベリー&ハルカフェ

1. 取組みの概要

今年度は春いろと一緒にぱん工房の中で作業を行ないました。25年度から取組みを開始している冷凍ロールケーキの製造については、「第3回 全国生産活動・就労支援部会職員研修会」で開催された見本市に出店。東京都日比谷公園で試食の提供を行ないました。数多くのお客様が来場され、冷凍状態でも損なわれない美味しさに対する評価を頂き、北海道内外の事業所様から受注を頂き、継続的な取引につながっています。



HARU カフェの運営では、顧客ターゲットを「お子様連れのお客様」に主眼を置いて、キッズスペースの拡大やおむつ交換ベッドなど、設備の拡充に努めました。

2. 成果

冷凍ロールケーキの受注は現在でも安定した受注を頂き、製造計画に見通しを持たせることが出来るようになりました。ご注文の量が予めわかっているので、利用者さんも慌てずに作業が出来ます。キッズスペースの拡充は検討を重ね、年度末に一定の整備を行なうことができ、同時期に雑誌の取材にも来ていただくことができ、今後の地域への情報発信に弾みをつけることが出来ました。



3. 課題

25年度の課題を受けて、パン工房と同じ建物での作業を行なうこととしましたが、スタッフの支援が手厚くなった反面、人数が増えたため、利用者さんに手狭な思いをさせてしまった



ように思います。新年度の班編成に反省を活かしていきたいと考えています。

贈答品ラスク

■ 事業班名 色彩

1. 取組みの概要

事業所内での昼食提供の業務委託を受け、日々の昼食作りを利用者さんの作業種として継続して取り組んでいます。利用者さんのリクエストメニューは25年度より継続して取り組みました。調理作業は生活スキルの向上にもつながりますが、刃物や火の取り扱いがあることから、怪我のリスクが課題となっていました。補助具等の導入を行なう等、安全に作業できる手立てを講じ、更に検討を続けています。グループホームの夕食製造の委託業務についても、歩～夢と連携しながら取り組みました。



2. 成果

利用者さんが大好きなメニューが実際に献立に反映されることが浸透してきたようです。皆さん積極的に要望をして頂けており、月に1つ～2つの献立をリクエストメニューにしています。刃物作業のための手を保護するガードを取り入れたことで少しずつ細かな切り傷が減っています。



3. 課題

食材費の全体的な値上がりも一つの要素ですが、少しさびしい盛付けになってしまうこと

が時々ありました。単純に量を増やす、ということではなく、付け合せの野菜に工夫をするなど、彩り豊かに楽しんで昼食を食べて頂ける様な取組みを進めたいと考えています。

また、衛生意識の向上も継続的な課題です。事業所内のほぼすべての利用者さんが食べる食事作りの班として、食品事故ゼロを継続するための手洗い支援等を継続して取り

組んでいきたいと考えています。

■ データ 工賃支払の状況 (たのしいどう全体)

利用者実人数：46名

1. 製造販売事業

生産活動売上：1691万円

工賃還元額：707万円

2. 下請加工事業

生産活動売上：57万円

工賃還元額：37万円

平成26年度 きっちんどう 事業報告

1. 26年度事業の総括

事業所を総括して、26年度から利用者さんが2名増え、就労継続事業B型と生活介護事業合わせて24名全員に利用中にケガで通院するような事故なく過ごせています。食品製造に関しても、大きな事故が発生することなく1年間製造販売を行なうことができました。食品製造販売では、ヤマト福祉財団より寄贈されたスチームコンベクションオーブンを導入したことにより、これまで利用者がかかわることができなかった調理工程に参加できる工程が増え、さらに製造数も増加、また製造時間を短縮することができるようになりました。衛生面での支援では、手洗い及び白衣の着用に重点を置いた支援を実施。少しずつではありますが、衛生面での意識が高まり、効果も出ているように感じられます。

権利擁護・虐待防止においても、スタッフとの共通認識や利用者さんへの情報提供と繰り返し話し合いの話題に挙げ、意識を高めることに努めています。

2. 実施事業

就労継続支援事業B型	定員 14名	現員 18名
生活介護事業	定員 6名	現員 6名

3. 平成26年度の利用状況

■きっちんどう全体（定員20名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	95.9%
開所日数	25	23	25	27	23	25	26	23	24	23	25	25	294	
延利用回数	475	442	495	524	456	470	502	422	439	459	445	508	5,637	

平均実利用数 19.2名（小数点第2位以下切り上げ）

■就労継続支援事業B型（定員14名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	102.8%
開所日数	25	23	25	27	23	25	26	23	24	23	25	25	294	
延利用回数	350	365	367	388	333	343	376	315	328	345	337	384	4,231	

平均実利用数 14.5名（小数点第2位以下切り上げ）

■生活介護事業（定員6名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	82.1%
開所日数	25	23	25	27	23	25	26	23	24	23	25	25	294	
延利用回数	125	120	128	136	123	127	126	107	111	114	108	124	1,449	

平均実利用数 5.0名（小数点第2位以下切り上げ）

25年度と比較して増員分、利用回数が増加しています。

4. 取組みの概要

26年度のきっちんどうとして、昨年同様、食品製造販売事業を利用者支援の軸として活動を実施。主におにぎり製造販売、弁当製造販売、昼食提供事業にて生産活動を行ないました。製造した商品を安心してお客様に食べていただくことができるように今年度は特に衛生面における質の向上として、「手洗いの徹底」及び「異物混入ゼロ」において重点的に取り組みました。

利用者の安全を確保するため、非常災害・事故対策に取り組み、利用者の権利擁護を促進するため、法人内外の研修にも取り組みました。

■利用者支援

支援の軸である生産活動事業では、おにぎり製造・弁当製造を中心に活動を実施しました。5月8日にヤマト福祉財団様よりスチームコンベクションオーブンを寄贈いただきました。これにより商品製造量・スピードが格段に向上し、これまで承ることができなかった大量受注にも踏み切ることができるようになり、これまで以上にきっちんどうのお弁当やおにぎりを地域の方を中心に口にさせていただく機会が増えました。



ヤマト福祉財団助成贈呈式の写真



スチームコンベクションオーブン



また、包丁を取り扱う際にどうしても食材を押さえている手を切ってしまうケースがあったことから調理治具としてハンドカバーを導入。全ての利用者さんのケガを防ぐことまでは至りませんが、包丁を扱う際にケガをする頻度が減りました。

今後もこのような治具の導入を検討していきたいと考えています。

ハンドカバーの写真

26年度も日本知的障害者福祉協会主催 東京日比谷公園で行なわれました第3回全国生産活動・就労支援部会職員研修会に参加させていただきました。会場に集まった全国の障害福祉サービス事業所と情報交換し、当事業所で製造している「肉巻きおにぎり」を宣伝。道内外10か所の事業所で行事などに使用していただくことが出来ています。



日比谷公会堂の前にて
出店した空知の風ブース

また、上記した見本市に出品している肉巻きおにぎりにおきましては、冷凍保存した状態で

「賞味期限」を算出するため、1年半保存した製品で官能試験を実施。「1年間」の賞味期限の根拠を確認することができました。合わせて生菌検査を実施し、商品の安全性を科学的に実証することも定着させています。

■権利擁護

権利擁護・苦情解決委員会の活動としては、年度初めに北海道知的障がい福祉協会にて行なわれている「人権侵害ゼロの誓い」の署名を実施。日本知的障害者福祉協会の倫理綱領をスタッフで読み合わせを実施。年度途中にも法人内研修にて再度、取り上げ読み合わせを行ない、法人独自の危機管理アンケートを実施し、自己点検をスタッフ個人まで行なっています。

■苦情解決

苦情受付については、今年度0件となっています。

26年度から「たのしいどう」で先行して導入していた「相談カード」を10月より



相談カードの写真

導入。利用者さんにも説明を行ない、苦情受付の用紙だけではなく、手軽に要望や相談が行なえるように対応しています。

■感染症対策

利用者支援で実施している食品衛生面での取り組みは、感染症においても良い影響を与えています。月一度の検便も大きな役割を果たしています。今年度は、検便にて利用者さんよりサルモネラ菌を保菌（健康保菌者）していることが判明。すぐに対応を行なえたことで、食品事故も起こることなく対応することができました。

利用者のインフルエンザ感染は、今年度は数名ありましたが、家庭や生活支援等とも連携及び協力をいただき、集団感染に至ることはありませんでした。

■災害対応・事故対策

非常災害・事故対策では、避難訓練を年2回（6/24、11/26）実施。利用者さん・スタッフ一同、改めて火災、地震等での災害時の対応方法、避難経路、避難先を確認する内容にて訓練を実施しました。

また、きっちんどうには、有事の際の出入り口として、表裏の1か所ずつの片側に偏った位置の出口しかなく、リスクが高い状況になっていました。今年度3月に新たな非常口を設置。万が一の際に、安全に外部へ出られる非常口が設けられました。



避難訓練時の様子



新しく設けられた非常口

今年度は、9/11 岩見沢市に大雨による避難勧告が出ています。通所時間の真っただ中であつたため、利用者の状況確認がなかなか把握することが難しい状況でありましたが、常務理事・施設長間で情報共有しながら、利用者さんの状況を把握。来所予定の21/24名すべての利用者は9:00までに事業所に受け入れすることができています。同日、13:20には勧告解除。16:00の閉所時には、通常通り送迎等で全員帰宅しています。



■年間行事

日時	行事名	会場
8/9	LPガス協会主催 キャラ弁教室	きっちんどう
1/17	LPガス協会主催 キャラ弁教室	きっちんどう

■諸会議

- ・法人全体会議・・・定例で月1回実施。
- ・事業所（班）会議・・・月一度の全体会議の他に事業所会議を月1回ペースで実施。
全体会議であがった案件や事業所の議案について検討しました。
- ・個別支援計画策定会議・・・利用者さんの個別支援計画作成時に1ケースごとに実施。
個別支援計画原案をもとに支援計画の支援内容等について検討しました。
- ・ケース会議・・・日々の利用者支援について検討を行ない、支援を実施しています。

■健康管理

7/17 利用者さん、スタッフに対して健康診断を実施。今年度からは、任意での取りまとめとなった検診でしたが、たくさんの利用者さんが検診を行なわれています。

一般検診の身体測定、視力検査、聴力検査、血液検査、尿検査、胸部x線、心電図、個人からのオプション検査。検査結果により、個人相談及び精密検査を勧めています。

■支援記録

利用者支援記録及び事業所日誌を通して、記録の在り方をスタッフと確認しています。第三者に閲覧していただくことがあっても適正な記録として見て頂けるような内容の記載を行なうように伝えています。文書で、全てを記録することは難しいことですが、特に支援記録においては、利用者さんの欠点ばかりに着目し、そこを改善するような記録ばかりを残すのではなく、1日の中で「できたこと」や「良い表情が見られたこと」などに目配りし、記録をしていくことが大切であることを昨年同様、継続指導しつつ、記録を残しています。

■職員研修

行政や各福祉団体からの法の改正における制度の研修、利用者支援・権利擁護における研修、生産活動における研修等の外部研修に25回延べ29名参加しています。

内部研修も不定期ではありましたが実施。基礎知識を含め、制度、記録方法などについても研修を行なっています。

今年度は、さらに外部へ視察見学を実施。研修会で見聞きする以外に肌で他の事業所を感じる機会を設けていただき、職員間の交流を深めることも行なっています。

■施設整備状況

就労機器・・・スチームコンベクションオープン

建物・・・・・・非常口

■工賃支払い状況

□就労継続支援事業B型

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	19	18	18	18	18	18
総支給額	270,500	238,400	318,700	275,600	249,600	276,100
平均額	14,237	13,244	17,706	15,311	13,867	15,339

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	18	18	18	18	18	18	217
総支給額	256,900	278,600	514,600	249,100	288,900	709,300	3,926,300
平均額	14,272	15,478	28,589	13,839	16,050	39,406	18,093

□生活介護事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	6	6	6	6	6	6
総支給額	77,600	78,800	89,900	84,200	79,600	88,000
平均額	12,933	13,133	14,983	14,033	13,267	14,667

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	6	6	6	6	6	6	72
総支給額	77,600	82,400	167,500	68,500	84,000	232,100	1,210,200
平均額	12,933	13,733	27,917	11,417	14,000	38,683	16,808

□事業所全体の平均工賃額 ￥17,773—(24名)(対25年度比 +205円)

5. 課題

利用者さんの生産活動を進める上で、ヤマト福祉財団より寄贈された「スチームコンベクションオープン」は利用者さんにもスタッフにも画期的な生産力を発揮しました。これ

まで生産上限数を飛躍的に伸ばし、大量受注の数も大きくこれまでを上回りました。調理効率が上がった分、利用者支援にもスタッフが動ける時間ができたことが一番の今年度の変化でした。しかし、その反面、衛生面での支援については、時間の経過とともに緩みがない様子がかがわれたため、事業計画に掲げられている支援目標の上位3つのテーマ（1. 安全の確保 2. 衛生の徹底 3. 生産性の向上）について何度も確認を繰り返す一年でもありました。この支援目標が一場面のことではなく、利用者支援全般に定着できるように来年度も引き続き、全スタッフにて情報の共有を行ない、一つひとつ取り組みを進めていくことが課題に残りました。

就労事業の報告

▲事業班名 てのひら

1. 取組みの概要

食品製造班として、おにぎりの製造販売・弁当の製造販売・利用者昼食提供に取り組みました。地元の高校生と協力して昨年惜しまれつつ閉店した「こもろそば」のゲソ丼を復活させ、定番メニュー化を実現しました。また、24年度から続けさせて頂いているLPガス協会さんより承っている小学生対象のキャラ弁教室も年に2回夏休みと冬休み期間に実施しています。

おにぎり製造では、「冷凍流通保存品」としての肉巻きおにぎりの賞味期限を1年間に延ばすことに成功し、東京で行なわれた「第3回全国生産活動・就労支援部会職員研修会」の物産展では500個を超える肉巻きおにぎりをお客様に実際に手に取って食べて頂き、アピールを行ないました。

昨今の食品異物混入事故の多くの事例から、当事業所でも白衣付着の異物取り除きに重点を置き、異物混入対策に取り組みました。



ついにゲソ丼完成！



真剣に先生の話聞いています。



こちらがゲソ丼復活のメンバー



上手にできました！



肉巻きおにぎり東京上陸

2. 成果

こもろそばのゲソ丼復活への取組みは、地元の岩見沢緑陵高校の学生さんの課題研究の一環として当きっちんどうへ協力依頼を頂いたことから始まりました。“地元根付いた味を失いたくない”、“復活させたい”という学生さんたちの熱い想いを形にするべく、まず

は当きっちんどうが「おにぎり屋」であることからゲソ天+おにぎりという商品を考え、「げそ天巻きおにぎり」を製作しました。岩見沢の百餅祭りでは300個を1時間で完売。

また、こもろそばの店主の二俣さんにもご協力頂き、たくさんの試行錯誤の上でついに「こもろ直伝」のたれを作ることができ、当時のゲソ丼に遜色のないものを作ることができました。当時からのファンがたくさんいらっしやり、様々な方にご注文頂いているメニューとなっています。



こちらがげそ天巻き



ゲソ丼ができました

26年度のキャラ弁教室は、第1回目は今年子どもに大人気の『妖怪ウォッチ』より「ジバニャン」を、そして第2回目は社会現象にもなった『アナと雪の女王』の「オラフ」を参加して頂いた小学生の皆さんと作りました。キャラ弁作りを通して、災害時などに電気よりも使いやすいLPガスの利便性を皆さんに体験してもらっています。普段は電気ジャーでしかお米を炊いたことのない皆さんも、真剣な表情で米川プロパンの方々から教えてもらいながら点火をし、上手にお米を炊くことができています。



スタッフが作った
アナと雪の女王の
キャラクター
「オラフ」です！



どのグループもみんな楽しく
調理してくれました！



みんなで作ったジバニャン



肉巻きおにぎりについては、定期的に生菌検査と官能検査を行なって少しずつ賞味期限を延ばして参りました。今年度は1年間の賞味期限を確保することができました。そして、昨年の10月に東京で行なわれた「第3回全国生産活動・就労支援部会職員研修会」においてたくさんの事業所の方、また一般の方にアピールさせて頂きました。特に2日間で行なわれた物産展では実際にたくさんのお客様に肉巻きおにぎりを手にとって頂くことができました。全国の事業所と情報交換を行なえたことで、相互に商品の購入を行なう機会が増えてきています。



研修会前に商品紹介をしていた
できました。



きっちんどうブースの写真



日比谷公園で、販売・商談会を行なった
空知の風ブース

お弁当では近隣の福祉事業所や市内の企業や行政機関などからもご注文頂く事ができました。また、今年度はヤマト福祉財団様の助成により「スチームコンベクションオープン」を購入することができ、今まで多大な時間を割いていた鮭焼きなどの作業時間を大幅に短縮することが可能になり、今まで以上に製造数を伸ばすことができるようになりました。その結果、ヤマト様のバレーボール大会の際に 250 個を超える大口注文を頂きましたが、スチームコンベクションオープンの性能もしっかり生かし、無事納品を完了することができています。



話題のスチコン



きっちんどうにて助成金贈呈式をヤマト福祉財団様に行なって頂きました。

本当にありがとうございました。

食品製造における衛生の取り組みとしましては、大きく2点について行ないました。一つは昨年度から実施している“手洗い支援”の完全実施。二つ目は、異物混入対策として、スタッフによる利用者さん一人ひとりへの白衣のローラー掛け、そして出品や納品する製品のチェックを必ず2人以上で行なうダブルチェックの流れを作りました。食品を販売していくということは、一つひとつの商品に責任があることをスタッフ間、また利用者さんとも共有し衛生面への意識を高めています。



手洗い、消毒まで確認しチェック



後ろもしっかりかけます



ローラーは必ずスタッフと確認しながら行なっています。

3. 課題

生産活動では、現在製造を進めている商品の質を上げていくことに力を入れてきましたが、新商品の開発が現在滞っています。今後もお客様に手にとって頂ける商品を開発することで店舗の売り上げ増も見込んでいきたいと思っています。現在、試作中の「イタリアン肉巻きおにぎり」を店舗での販売並びに生菌検査等を実施し、通常肉巻きおにぎり同様に全国の皆様へ冷凍流通することが行なえる様に進めていきたいと考えています。

また、お弁当においては今年度、長期間ご利用頂いていた市内の土木建築の企業の方々の現場が年度区切りで受注が終わってしまうので、年間サイクルで安定した受注がいただける顧客確保に努めていく必要を感じています。並行し、地域貢献として独居の高齢者の方にお弁当を届けるだけでなく日々顔を合わせることで健康状態も確認できるような取組みを進めていきたいと考えています。

4. データ

利用者実人数：24名

生産活動売上：1,214万円

工賃還元額：466万円

▲事業班名 まごころ

1. 取組みの概要

下請加工事業班として、外部への職場実習や自動販売機の管理等を実施しました。26年度は新たに水と植物原料のみで作られており、飲み込んでも安心な口腔ケア製品である「ORALPEACE」を仕入れ、事業所内のみならずイベントなどでも販売しました。

2. 成果

ふらっと、ツルハドラッグの連携事業などでも販売する機会を得たことや、TVなどで取り上げられたこともあり徐々に商品の知名度が上がってきています。



イベントで販売させて頂きました



飲み込んでも安心、安全！

3. 課題

外部への販売、アピールはまだまだ足りず、またスタッフ・利用者さんとも口腔ケアに対する意識はまだ低く、今後自分たちの意識の向上をすることで外部へのアピールにつなげていきたいと考えています。

4. データ

利用者実人数：24名

生産活動売上：71万円

工賃還元額：47万円

平成26年度 あかるいどう 事業報告

1. 26年度事業の総括

平成25年度に新たな事業所として「あかるいどう」を開設して2年が経過しました。増加する希望者と多様化するニーズの活動拠点とし、取り組みを進めてきたこの1年の中でも、様々な活動の挑戦や充実を目指して行なってきました。25年度に引き続き、企業で働く方達の定着に向けた支援や、事業所内における創作活動や下請け作業を通じた日中活動支援を実施しました。

障がいのある方達の芸術作品を常設展示する「アトリエ」も開設して1年経過し、様々な作品展示を行なう事が出来ています。市内中学校の支援学級生徒さん達の作品や、空知地区の他事業所の利用者さん達の芸術作品などもお借りし、アトリエ展示を華やかにしています。『あかるいどう』では、アトリエ展示作品のテーマを設け、制作へと取り組んでいます。また、『たのしいどう』利用者さんの作品や製品展示も行ない、沢山の芸術作品展示を行なうことが出来、市民を中心とした皆様にも来場して頂き、様々なお言葉を頂いています。

2. 実施事業	(4月～11月)		(12月～3月)	
就労移行支援事業	定員10名	現員11名	定員6名	現員9名
生活介護事業	定員10名	現員10名	定員10名	現員10名

3. 平成26年度の利用状況

■あかるいどう全体 (定員20名)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	16	17	16	17	16	16	16	17	17	17	15	16	196	56.6%
開所日数	25	24	25	26	24	24	26	24	23	23	23	25	292	
延利用回数	284	276	274	311	270	280	288	256	273	264	246	284	3,306	

平均実利用数 16.4名 (小数点第2位以下切り上げ)

■就労移行支援事業 (定員10名)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	7	8	7	8	7	6	6	7	7	7	5	6	81	46.3%
開所日数	25	24	25	26	24	24	26	24	23	23	23	25	292	
延利用回数	125	119	126	146	120	118	107	100	107	95	87	101	1,351	

平均実利用数 6.8名 (小数点第2位以下切り上げ)

■生活介護事業（定員10名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	9	9	9	9	9	10	10	10	10	10	10	10	115	67.0 %
開所 日数	25	24	25	26	24	24	26	24	23	23	23	25	292	
延利用 回数	159	157	148	165	150	162	181	156	166	169	159	183	1,955	

平均実利用数 9.6名（小数点第2位以下切り上げ）

4. 取組みの概要

26年度の取り組みとして、就労移行支援事業では、主に職場への定着支援を行なっています。

生活介護事業では、製造販売事業と下請加工事業に分け活動を行なっています。製造販売事業としては、通所されている利用者さん皆さんへの昼食を提供する、昼食製造を行ないました。下請加工事業として、館内清掃と市内の高齢者施設における清掃に取り組みました。また法人内の生産活動で行なっているパン屋の商品販売・納品を行ないました。

館内では、アトリエ展示品を市内の障がい者関係施設グループや市内中学校特別支援学級等から作品を募集し、障がい者アートの常設展示に取り組んでいます。

5. 成果

■利用者支援について

□企業就労（利用者 8名）

就労先	業務内容
菊水製麺	麺梱包等
イオン岩見沢店	惣菜製造等
ビックハウス岩見沢店	精肉包装・品出し等
ノワ岩見沢	ほうれん草栽培等
日盛ビル管理	清掃作業
ツクイ	清掃作業
渡辺農場(実習)	トマト収穫等
かんすけ(実習)	パン製造等



就労移行支援事業では、登録利用者8名の内、今年度に2名が就労定着支援に移り、内1名においては企業実習を実施し、就職へのチャレンジを行なっています。

職場実習では、企業様の都合により、雇用契約が26年度も見送りとなっています。定着支援でも全てが順風満帆に進んでいるわけではなく、離職や雇用主様との調整を欠かせないケースも複数あり、まだまだ支援の必要性を強く感じた1年でもありました。

□事業所内での生産活動（取り組みの詳細は就労事業報告参照）

生産活動を中心に活動を行なう事業所が増加していく中、芸術に特化した創作活動中心の取り組みを26年度も行ないました。岩見沢市内では、12月の「障害者週間」に岩見沢駅舎にて「障がい者アート展」を実施していますが、その作品や取り組みがお披露目されるのは1週間。作品を常設展示する場として、アトリエを開設して1年経過し、当事業所の利用者の作品も多数増え、テーマ毎に展示の入れ替えを行なっています。一人ひとりの持った才能が、制作する上での作品へと活かされてきています。



■権利擁護について

権利擁護・苦情解決委員会の活動としては、年度初めに北海道知的障がい福祉協会にて行われている「権利侵害ゼロの誓い」の署名を実施。日本知的障害者福祉協会の倫理綱領をスタッフで読み合わせを実施。年度途中にも法人内研修にて再度、取り上げ読み合わせを行い、法人独自の危機管理アンケートを実施し、自己点検をスタッフ個人まで行っています。また、自己覚知について研修し、利用者支援において事前に対応をチームで決める等、ケース対応について検討しております。

■苦情解決委員会

苦情受付については、今年度0件となっています。苦情件数は0件でしたが、要望は2件あり、相談や内容等は、利用者さん一人ひとりから口頭で受け付けており、随時対応を行なっています。

■感染症対策

感染症対策として、年に一度の健康診断実施やインフルエンザ予防接種の奨励。感染症については、月一度の検便も大きな役割を果たしています。

今年度、感染症に罹った利用者、スタッフは0名で終わることができています。

■災害対応・事故

非常災害・事故対策では、6/24、11/26に避難訓練を実施。利用者さん・スタッフ一同、改めて火災、地震等での災害時の対応方法、避難経路、避難先を確認する内容にて訓練を実施しました。



事故防止においては、交通事故や支援中の事故ばかりでなく、個人情報の取り扱いについて指導及び教育を行なっています。

■年間行事

日時	行事名	会場
4/1～8/31	空知他事業所の利用者さん作品展示	あかるいどう 1階アトリエ
9/1～11/30	アトリエあかるいどう ・卵の殻アート作品展示「世界の名画たち」 ・ひかりワールド作品展示 ・豊中学校岡さん作品展示	あかるいどう 1階アトリエ
12/1～12/7	ふらっとアート展作品出展	岩見沢駅 2階
12/1～2/28	アトリエあかるいどう ・ステンドグラス作品展示 ・光陵中学校特別支援学級作品展示	あかるいどう 1階アトリエ
3/1～5/31	アトリエあかるいどう ・リサイクルアート作品展示	あかるいどう 1階アトリエ

■諸会議

- ・法人全体会議・・・定例で月1回実施。
- ・事業班会議・・・月一度の全体会議の他に事業所会議を月1回ペースで実施。全体会議であがった案件や事業所の議案について検討しました。
- ・個別支援計画策定会議・・・利用者さんの個別支援計画作成時にケースごとに実施。
個別支援計画原案をもとに支援計画の支援内容等について検討しました。
- ・ケース会議・・・日々の利用者さんの支援について検討を行ない、支援を実施しています。

■健康管理

7/17 全利用者さん、スタッフに対して健康診断を実施。
身体測定、血液検査、胸部x線、心電図、個人からのオプション検査。検査結果により、個人相談及び精密検査を勧めています。
月1回、利用者さんの体重測定を実施しています。医務日誌や連絡帳を通して、季節に応じた体調管理や体調変化など、親御さんと連絡を取り合っています。

■支援記録

事業所日誌や日々の支援記録を通して、記録の在り方や適正な記載の方法などを伝えています。1日の作業の内容や出来事だけではなく、どのような工程が出来るようになったか、どんなことへ興味を持って取り組んでいるかなども記載するよう指導しています。出来ない行動ばかりに注目するのではなく、色々な視点を変えながら支援し、記録へと繋げていけるよう指導しています。

■職員研修

行政や各福祉団体からの法の改正における制度の研修、利用者支援・権利擁護における研修、生産活動における研修等の外部研修に11回延べ4名参加しています。
内部研修も不定期ではありましたが実施。職員研修では質問しにくい障がいについて基礎知識を含め、制度、記録方法などについても研修を行なっています。

■施設整備

実施日	整備事業	金額
10/31	アトリエ玄関スロープ整備	¥59,878-
12/19	アトリエ手摺壁工事	¥32,400-
3/31	作業場間仕切り備品	¥82,568-
	洗面台設置工事設備	¥172,800-
	合計	¥347,646-

■工賃支払い状況

□就労移行支援事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	9	8	8	8	7	7
総支給額	191,700	173,300	181,900	179,500	177,300	182,800
平均額	21,300	21,663	22,738	22,438	25,329	26,114

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	7	7	7	6	6	6	97
総支給額	180,000	180,000	220,200	167,800	173,400	430,500	2,826,500
平均額	25,714	25,714	31,457	27,967	28,900	71,750	29,139

□生活介護事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	9	9	9	9	9	9
総支給額	110,000	99,400	106,000	91,500	102,900	100,900
平均額	12,222	11,044	11,778	10,167	11,433	11,211

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	9	9	10	10	10	10	112
総支給額	100,900	101,100	208,100	99,500	117,100	239,900	1,296,900
平均額	11,211	11,233	20,810	9,950	11,710	23,990	11,579

□事業所全体の平均工賃 ￥ 20,213—(17名)

6. 課題

就労移行支援においては、今年度「就職」「職場定着」へと移った利用者さんが少なく、「離職」へと繋がってしまうケースもあった。ニーズの多様化により、企業と連携していく難しさや新たな就職へと繋げていくことの厳しさに今年度は直面してきた。就労移行支援の利用者が減少し、来年度は確保が難しいと判断を行ない、就労継続支援へと事業への変更を行ない、日中活動支援の充実へと拠点を変えていく予定である。

利用者の生産活動・創作活動を進める上で、今年度は環境整備を行い、一人ひとりが安心して作品作りを行なえるような空間を模索してきた。創作活動においては、テーマに応じた作品を完成まで創り上げる難しさや、個々に合った作業分担の創造を行なうことの困難を極めています。展示部門のアトリエでは、定期的に作品の入れ替えを行い、足を運んで頂いた市民の皆様に喜んで頂けるような展示、作品作りを随時進めていく。今後は、展示だけではなく、作品販売も行なえるような製品制作へと取り組んでいきたい。

就労事業報告

■事業班名 にこにこ・さんさん

1. 取組みの概要

日中の創作活動では、1階アトリエに展示する作品制作に3ヵ月毎のテーマを設け、制作へと取り組んでいます。昨年に引き続き、卵の殻アート制作やステンドグラス制作、リサイクルアート制作などにも皆で取り組んでいます。制作に使う木材や枯葉、木の実などを公園へ拾いに行く、他事業所の作品展示を見学するため札幌へ外出するなど、制作への素材探しや勉強などにも今年取り組んでいます。アトリエでは定期的に、岩見沢市内特別支援学級生徒さん達の作品や空知他事業所利用者さん達の作品等をお借りして、展示も行なってきました。

秋には、岩見沢駅前の赤レンガで行なわれた、地元で採れた野菜を使ったアートイベントへ参加し、地域交流も行なっています。2月に岩見沢イオンで行なわれた合同即売会では、オーラルピースの販売を行なう等様々なイベントへも参加することが出来ています。

制作作業風景と作品達



卵の殻アート時計



食品製造班のにこにこは、利用者さんの昼食提供に取り組みました。

利用者さんと共に昼食を製造して、通所されている利用者さんの昼食を提供してきています。また、利用者さんと共にスーパーへ出向き、昼食の食材購入も行なってきました。

下請加工事業班のさんさんとして、館内清掃とこぶしの清掃委託、オーラルピース(歯磨き粉)の販売へと新たに取り組みました。

館内清掃では昨年に引き続き、1階アトリエ、2階多目的室、トイレや階段清掃、ペットボトル、缶飲料の分別、洗浄作業を行ないました。こぶし清掃委託では、今年度より月額ではなく、日額価格で契約を行ない、より多く工賃を利用者さんへ還元する事が出来ています。年々取り組む清掃内容が増え、清掃技術を求められる事が多くなってきています。メンバーは各自、自分の役割りへ責任を持ち、意欲を高めながら作業に取り組んでいます。

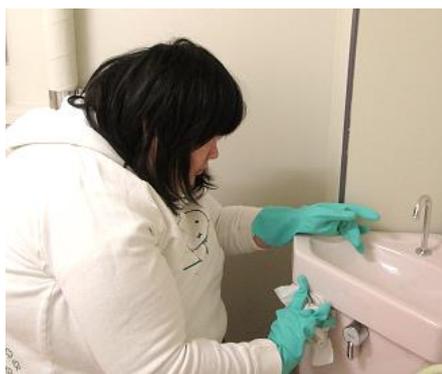
昼食作り風景



オーラルピース(歯磨き粉)販売中



館内清掃風景



作品展示見学

in 札幌外出



2. 成果

活動（製造、創作活動、清掃）を通じて、就労意欲と就労の目的を実感し、社会的ルールを身に付けています。創作活動では、12月に岩見沢駅構内で行なわれた「アート展」に卵の殻アート、ステンドグラスを出展しています。他事業所の作品展示を見学出来た事で、作品創りへのヒントを得られた利用者さんやイベントへの参加が、活動意欲、達成感へと繋がっています。

卵の殻アート：世界の名画達



オリジナルステンドグラス



リサイクルアート：春・夏・秋・冬



3. 課題

今年度も環境整備を行ない、作業場の改善を行ないましたが、利用者さんの個質や作業内容、ニーズに応じた個々の環境整備が必要である。今年度は、アトリエに飾る制作のみ取り組んできましたが、来年度は制作した製品を販売出来るような取り組みをしていきたい。

4. データ

下請加工事業（さんさん）
 利用者実人数：13名
 生産活動売上：339万円
 工賃還元額：316万円

製造販売事業（にこにこ）
 利用者実人数：3名
 生産活動売上：147万円
 工賃還元額：76万円

平成 26 年度 歩～夢 事業報告

■26 年度事業の総括

平成 26 年度の歩～夢の運営については、事業計画に予定していた新規住居は、場所や間取りなどの条件面で適した物件がなかなか見つからず、年度内に開設までには至りませんでした。幸いにも年度末に良い物件が 2 棟見つかり、27 年度当初より 1 棟、年度途中でもう 1 棟を新しい住居として開設できる見込みとなりました。また、整備事業で予定していた修繕事業では、秋いろいろ荘の外壁が雪害の保険適用を受け、修理をすることができています。夏色荘については、補助金を申請しておりましたが、行うことができませんでした。

利用の状況について、退所者 1 名と、新規利用者が 1 名入居されています。

支援の面では、昨年同様の住居ごとに誕生日の夕食を企画や GW や年末年始の外出や、お盆の旅行などの余暇の充実を図る支援に加え、新しい取り組みとして、地域や近隣市町村のイベントの参加と、赤い羽根共同募金の街頭募金活動にも参加し、利用者さんにとっても支援員にとっても学ぶことが出来た 1 年だったと感じています。

次年度以降は新規住居の開設に伴い女性の宿泊体験事業の拡充を進めていきたいと考えています。暮らしの質の向上に努め、人権擁護や虐待防止に一層取り組み、日中活動との連携を重視して事業を行ないたいと思います。

1. 実施事業

共同生活介護一体型事業所（合計定員 28 名）※宿泊体験 2 名含む

春が来た荘	定員 5 名	現員 5 名	
夏色荘	定員 5 名	現員 5 名	（宿泊体験 1 名）
秋いろいろ荘	定員 5 名	現員 5 名	
冬暖か荘	定員 5 名	現員 4 名	（宿泊体験 1 名）
いなほが実り荘	定員 4 名	現員 4 名	
ハラダハイツ	定員 2 名	現員 2 名	
ユーポハラダ	定員 2 名	現員 2 名	

2. 平成 26 年度の利用状況

※定員 28 名うち宿泊体験 4 名（4 月～9 月） 定員 28 名うち宿泊体験 5 名（10 月～1 月）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	27	29	28	29	29	30	30	31	30	28	28	28	28
開所 日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
延利用 回数	739	758	741	763	735	746	770	747	762	716	688	766	8,931

※平均実利用者数 24.5名（小数点第2位以下切り上げ）

※平成27年1月末に春が来た荘に男性1名退所

平成27年2月に春が来た荘に男性1名入居

入居利用者さんの仕事の関係や、ご家庭の事情などにもより、年々長期の帰省をされる方が少なくなって来ていることで利用自体は安定していたと思われま。ご家庭との連携を念頭において、今後も一層余暇時間の充実など生活支援の重要性が増してくるものと思われま。

※宿泊体験

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	1	3	2	3	3	4	4	5	4	3	2	2	3
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
延利用回数	11	24	17	25	21	28	24	42	47	38	11	15	303

平均利用者数 0.83名（小数点第2位以下切り上げ）

今年度も女性の宿泊体験に使用できる居室が確保できなかった為、男性のみの宿泊体験を行なっています。

女性の在宅者からの宿泊体験ニーズについては、27年度より受入れを再開する予定です。

3. 取組みの概要

■利用者支援

暮らしの場であるグループホームでは、少人数での家庭的な雰囲気を保ちつつ、入居している利用者さんが主体となって、家事など役割分担を決め協力し合いながら生活しています。また、入浴や洗濯など、介助が必要な方にもそれぞれ自分で出来ることは維持しながらスタッフが直接支援を行なっています。

町内や地域とのつながりを持てるように、挨拶をはじめとして、ご近所の方に知っていただくように様々な取組みをしました。除雪やゴミステーションの掃除、町内のイベント参加等を通じて、外での活動も増えてきたことで、ご近所の方からも気軽に声を掛けて頂いただくことも増えてきました。利用者さんも地域社会の一員として自信の持てる1年となりました。

■権利擁護

世話人を含むすべての歩～夢スタッフを対象に、権利擁護や虐待防止の考え方、権利侵害や虐待が起きやすい心理状態、自己覚知などについての研修を開催しました。他には、

自分たち行動傾向を見直す研修も行き自分がどのような性格なのかを心理テストを持ちいり改めて考え直す研修も行いました。定例の会議内で、ニュースなどで報じられた虐待の事例、福祉制度の情報などを施設長より話され、パートの世話人に至るまで一定の学習の機会を持たせたと思います。

■苦情解決委員会

今年度の苦情件数は 0 件、要望が 1 件となっています。日常の細かな要望については、日々の支援の中で声掛けや助言を行ない、対応をしております。要望や相談の中では多いのは、共同生活の中での他者の生活音や、行き違いによるものも多いと感じます。少人数とはいえ、家族以外の方たちとのグループによる生活であることも含めて、他者への気遣いや協力することなどを伝えていけたらと思います。

■感染症対策

今年度、インフルエンザの予防接種を行いました。3 名の方がインフルエンザを発症しました。1 名の方については年末年始で帰省時期だったこともあり、この方からの感染が拡大することはありませんでした。他に 2 名の方の発症が確認されましたが、重篤にならず完治しております。

うがい、手洗いの励行、予防接種や、加湿・換気などの対策のおかげか、インフルエンザやその他感染症が歩～夢内で大きく流行することはありませんでした。今後も継続して行ない、食中毒やその他の衛生面についても対策を講じていきたいと思ひます。

■災害対応・事故対応

24 年度から取り組んでいる非常用持ち出し袋の支援については、今年度も引き続き行っています。また、避難訓練や地震が起きた時の対応の仕方や逃げ方、急病やけが人が出た際の救急通報の訓練など、利用者さんが非常時に落ち着いて行動できるように、学習を継続して行なっています。地元の消防からもご理解を頂いており、知的障がいの方が安全に避難が行なえるように、様々な提案や助言を頂戴しました。今後も継続して繰り返す行なうことが重要と考えています。

今年度、地域の拠点となる GH に AED を 2 台設置しました。今後、万が一の時の為にスタッフにも講習会を開き、学習を行ないました。



■年間行事

年 月 日		内 容
平成 26 年	4 月 16 日	誕生会（各月行っている）
	5 月 3 日	GW 外出(三笠イオン) バーベキュー
	5 月 17 日	利根川クリーングリーン大作戦
	5 月 22 日	全国障がい者スポーツ大会強化合宿（1 名）
	5 月 31 日	新篠津幸生園祭り外出
	8 月 9 日	農業・食体感バスツアー
	8 月 13～14 日	お盆の 1 泊旅行（南幌温泉）
	8 月 15 日	旭山動物園外出（日帰り）
	9 月 7 日	栗山マラソン大会
	9 月 21 日	バーベキュー
	9 月 25 日	避難訓練
	9 月 27 日	あかとき学園祭
	10 月 2 日	『空知チカラ』イベント外出（砂川）
	10 月 12 日	赤い羽共同募金（街頭募金活動）
	11 月 9 日	佐藤動物病院コンサートイベント
	10 月 30 日～11 月 5 日	長崎がんばらんば大会
	11 月 13 日	かたるべ参加
	12 月 6 日	クリスマスコンサート鑑賞
	12 月 20 日	歩～夢忘年会
平成 27 年	1 月 1 日	初詣外出
	1 月 3 日	外食・ラウンドワン外出
	1 月 9 日	厄払い
	3 月 4 日	避難訓練・防災講話
	3 月 23 日・24 日	避難訓練

26 年度は、利用者さんの全国障害者スポーツ大会長崎大会の選手に選ばれ、大会に向けた強化合宿やトレーニングを行いました。スタッフも選手団の付添として参加することが出来、ご本人も同行したスタッフも大変良い経験をして帰ってきました。他にも、たくさんのイベントに参加し、野菜の収穫体験や漬物づくり、岩見沢市での利根川の清掃イベントなど様々な体験をされています。また、利用者さんからもマラソン大会に参加したいと声が上がリ、数名の方と付き添いスタッフ 1 名で参加して見事時間内に走り切ることが出来ました。帰りには野菜 1 箱・温泉の無料チケットを景品として頂き帰宅されました。





■職員諸会議

- ・法人全体会議・・・定例で月1回実施。
- ・事業会議・・・全体会議のほかに月1回実施。主に常勤の生活支援員を中心に、各利用者さんの支援上の課題や、設備、運営の仕方などの協議を行ないました。
- ・世話人会議・・・月1回実施。世話人会議では世話人を中心に、事業会議や法人全体会議での決定事項の周知や、個別に抱える課題の共有、宿泊体験や特に注意が必要なケースについての話し合いを行ない、支援がブラインドにならないように努めました。
- ・個別支援計画策定会議・・・個別支援計画作成時にケースごとに実施。支援内容などを協議し、計画案を作成しました。

次年度も事業会議および世話人会議他初会議をより充実し、日中活動事業所との連携や情報・課題の共有を図っていきたいと考えています。

■健康管理

毎年7月に行なわれた健康診断の結果をもとに再検査が必要な方などのデータを嘱託医に診て頂き相談をさせてもらいました。今後、どのような診察等が必要かアドバイスにそって専門の病院に通院し検査等を行っています。

結果としては、どれも大きな問題はありませんでしたが。徐々に高齢に向かわれている方も多くなってきたため、健康維持への取り組みや検査内容を変更していくなどして年齢や、体調にあった検査を考えていく必要があると思いました。

■支援記録

個別の支援記録を工夫して、引継ぎ内容が確実に記載されて情報共有がより確実になるように作成を行ないました。ご家庭とのやり取りについては、連絡帳を用いて確認事項や、日々の様子について伝えさせていただいています。

■職員研修

内部研修については、定例の世話人会議の中で主に権利擁護や、障がいや、支援の考え

方について話をしていききました。

その他は法人の研修計画に基づき研修参加を進めています。

参加した主な外部研修	内容
地域スタッフ研修会	利用者が主役の支援とは？
道福協支援員研修会	人権セミナー
空福協新人職員研修	福祉事業所職員の資質について
リスクマネジメント研修	福祉現場の危機管理セミナー
子ども発達支援関係者研修会	発達障がい支援の役割
空福協職員研修Ⅱ	運動の重要性について
権利擁護伝達研修会	虐待防止と権利擁護について

■施設整備状況

大雪の影響で、春が来た荘の屋根に修繕箇所が見つかり、保険適用で修理しています。また、秋いろいろ荘についても、雪害による外壁の損傷が見つかり、修理を行なっています。

平成26年度 地域生活支援事業（楽らく・そらなび） 事業報告

1. 26年度事業の総括

岩見沢市より指定を受けて実施している日中一時支援事業（楽らく）は、美唄市、三笠市、栗山町、由仁町と委託契約をし、主として土曜日午後の預かり支援の時間を活用し、様々な余暇活動を実施しました。指定特定相談支援事業（そらなび）は空知の風の利用者さんのサービス等利用計画の作成の他、在宅で1人暮らしをされている方のサービス利用に関する相談や、障がい福祉サービス事業所との利用調整を行ないました。

2. 実施事業

- 日中一時支援事業 定員15名
指定特定相談事業

3. 平成26年度の利用状況

■日中一時支援事業 楽らく

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	20	20	23	26	24	20	24	25	24	24	24	22	
延利用回数	49	56	57	81	88	62	73	85	83	78	79	67	858

土曜午後の時間を活用した余暇支援を年間49回実施しました。契約者数も増加しています。

■指定特定相談事業 そらなび

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	8	2	1	6	7	9	1	1	2	2	0	7	46

法人の利用者さんの利用が多くを占めました。法人内の利用者さんのモニタリングは現在の職員配置上、そらなびでは行えないため、他事業所への移管を進めました。

4. 取組みの概要

■日中一時支援事業 楽らく

季節に応じたメニューを定期的に変更しました。人気メニューのカラオケやボウリングは変わらず人気メニューとなっています。次いでお菓子などの食べ物を作るメニューにも希望が多く寄せられています。

法人内の利用者さんの利用が多数を占めますが、一部他法人からの余暇支援メニューを楽しみに参加される方も継続的に利用されています。



■指定特定相談事業 そらなび

法人内の利用者さんを中心にサービス等利用計画の作成を進めました。時期によっては支給決定の更新が集中することもあり、期限に追われることも多々ありましたが、サービスの利用等に支障が出ることもなく、無事に作成業務を行なうことが出来ました。

5. 成果

■日中一時支援事業 楽らく

毎月の担当スタッフでの企画会議をもとに季節に応じたメニューを企画し、実施することで、多数の利用者さんに安定的に参加して頂くことが出来ました。季節イベントの中で最も人気なのはクリスマスパーティーで、イベントのスペースがいっぱいになるほど参加して頂けています。ハロウィンなどはスタッフ付添いで仮装したスタッフを探し回るなど、笑いの絶えないメニューが印象的でした。

■指定特定相談支援事業 そらなび

そらなびを利用される方のサービス等利用計画を作成する中で、一人暮らしをされている利用者さんの生活課題と真っ直ぐに向き合った支援ができたのではないかと振り返っています。単独での生活に難しさを感じている方も、居宅介護事業者さんの支援へつなげることで大幅に生活の質が向上するなど、相談支援員としても大きな経験を積むことが出来ました。

6. 課題

■日中一時支援事業 楽らく

利用される方が増加し、賑やかに行なえる反面、外出を伴うメニューの際はどうしても大所帯になってしまい、個別の希望に沿って小回りを利かせることが難しくなっています。また、利用される方の障がい特性も多様化していますので、対応したメニュー設定を今後も検討していく必要があります。

■指定特定相談支援事業 そらなび

他業務と兼務での相談支援は多数の相談業務を一手に引き受けられないジレンマがあります。時期的に計画作成が集中する時は他事業所と連携しながら上手に切れ間の無い計画を作り続けていく事が求められます。

法人内の利用者およびご家族のニーズとしては、多くの方が日頃から関係のあるそらなびでの計画作成を希望されていますが、制度上モニタリングも出来ないこともあり、他事業所の相談員との出会いをサポートするようにしています。

岩見沢市の1000人以上の計画作成対象者は、市内の事業所と市役所との連携により平成27年3月までに全ての方の作成を終えましたが、今後適切な支援の質を担保しながら維持していく機能が求められます。その役割の一端を担える様に実践を重ねていくことが必要です。